

米国 リンゴの統計は減少を示す

FreshFruitProtal 2023年4月12日

すべての統計項目において、2022-23年度は米国の生鮮リンゴ産業にとって下落の年である。

米国リンゴ協会(USApple)が4月10日に発表した追跡レポート(USAppleTracker report)は、今季の収穫物と現在の貯蔵ものの合計が5年間の平均及び近年の水準より少ないことを示している。米国の生鮮リンゴの輸出も大幅に減少している。米国の生鮮リンゴの輸入は常に比較的小さな要素だが、これも減少している。

2023年4月の時点で、米国の生鮮リンゴの貯蔵量は5,020万ブッシェル(1ブッシェル=42ポンド(約19kg))であった。これは、2022年4月の5,330万ブッシェルより少なく、4月の5年平均である5,440万ブッシェルよりも少ない。貯蔵リンゴの4月より前の合計出庫量の5年平均は6,730万ブッシェルであるが、2022-23年度には、5,230万ブッシェルが出荷された。

今シーズンの加工用リンゴの貯蔵量はわずかに減少している。2023年4月の時点で、2,110万ブッシェルが貯蔵されているが、その時点での5年平均は2,250万ブッシェルである。

米国の生鮮リンゴの月別輸出量は、すべて5年平均を大幅に下回っている。2022年12月の輸出量が前年と同程度の300万ブッシェルであったことを除くと、2022-23年度の輸出量は、前年度 - この年も輸出が少なかった - をわずかに下回っている。

2022年7月以降、米国の生鮮リンゴの月別輸出量は約180万ブッシェルから12月の300万ブッシェルの範囲であった。

2022年7月に米国は約100万ブッシェルの生鮮リンゴを輸入した。月別輸入量は急速に減少し、11月から2月にかけてはリンゴの輸入はほとんど見られない。

今シーズン現在までの生鮮リンゴの総輸出量は約1,400万ブッシェルであり、総輸入量は約200万ブッシェルである。これらの数字はどちらも直近5年間で最低である。

2023年4月の時点で、CA貯蔵が貯蔵方式の大部分を占めており、全米のCA貯蔵量は4,030万ブッシェルであった。ワシントン州のCA貯蔵のリンゴは3,420万ブッシェルであった。4月の(CAでない)冷蔵貯蔵は合計でわずか990万ブッシェルであった。

ブラジル オレンジ果汁巨大企業の価格操作で訴訟

FreshFruitProtal 2023年4月12日

ロイター通信によると、ブラジルの検察当局は、1999年から2006年の間に共謀して価格を固定したとされる国内最大級のオレンジ果汁製造業者らに対する集団訴訟で、25億米ドルの損害賠償を求めている。訴訟の被告は、世界のオレンジ果汁のほとんどを供給しているクトラーレ(Cutrale)社、シトロスーコ(Citrosuco)社、ルイス・ドレイフス(Louis Dreyfus)社等の企業である。

「この訴訟は、サンパウロ州だけでも同分野の中小企業の約75%を排除し、ブラジル国内のオレンジ果汁製造のほぼ80%を支配していると検察当局が指摘する企業からの賠償を求めている」とロイターは伝えている。柑橘類の生産者らは、これらの企業が果実の価格の下落を意図してカルテルを形成し、農家と消費者に損害を与えたとしている。

ブラジルの反トラスト規制当局である経済競争行政委員会(CADE)が調査を行い、この監視機関と企業は2016年に、この事案を解決するために約6千万米ドルを支払うことで合意に達した。

集団訴訟は、最初の告発から20年以上経った3月に検察によって提起された。検察は127億リアル(25億1千万米ドル)の損害賠償を求めており、この金額は2021-22年度のオレンジ果汁の輸出額である16億2千万米ドルを超えている。(ブラジルの法体系は日本と異なるため、法律用語の翻訳は暫定的なものです。)